

事業所名	グループホーム日だまりハウス別館 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 1月11日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員 B:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>遙か山脈に抱かれた県北部の田園地帯に、「グループホーム日だまりハウス別館」はある。徒歩で3分ほどの所には、郵便局・コンビニ・バス停・理美容店があり、利便性も良い。木を基調とした平屋建てのホームで、庭には自給自足ができる野菜畑があり、旬の野菜が幾種類も作られ、収穫後は食卓に並び、入居者の健康維持に貢献している。</p> <p>代表者は、「袖触合うも多生の縁」をモットーに、人の出会いを大切に、重度の認知症を抱えている入居者やその家族の尊厳を温かく受け止めている。職員へは、公私を問わず人生ごと引き受けて共に成長していく姿勢があり、グループホームは心の癒しの場となり、出会った人との新たな出発点となっている。</p> <p>入居者自身がグループホームという家庭を営んでいく方針で、職員はその手助けに徹し、側面から支援している。家事作業から米作り・野菜作り等、農作業を主にして入居者に達成感を提供している。</p> <p>地域と密着した、地域に支えられたグループホームであり、後援会「すみれ会」の存在は大きい。様々な行事に入居者を招待し、手打ちうどん等での食事会、地域納涼祭や演奏会等でも交流している。</p> <p>入居者・家族の希望に沿って終末ケアにも応じてきており、長い人生の最期を家族と共に看取る等、一つの命と真摯に向き合う姿がある。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<p>本人・家族の意向を汲み取り、総合的な援助の方針を明示し、全ての職員が意思統一のもと、介護に取り組んでいる。ひたむきに誠実に関わっていく姿勢があり、感銘を受ける。アセスメントからモニタリングまでの流れをいまま少し研究して取り組むことにより、介護の専門職としての自信に繋がり、ひいては認知症の混乱に翻弄されている入居者の一助となる新たな事にも気付けるかもしれないと思う。</p>

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>「ゆったりとした自由な暮らし」・・・規則に縛られることなく、自分のペースを保ちながら共同生活を送ってもらおう。</p> <p>「自信と安らぎのある暮らし」・・・ホッと安らげる家庭的な住まいであり、戸惑い易い認知症の人の心と体に配慮し、支えていく。</p> <p>「安全と衛生の保たれている暮らし」・・・感染に気をつけ、媒介とならないように清潔保持に努め、安全を約束する。</p> <p>「能力が最大限発揮できる暮らし」・・・昔行ってきた当たり前の生活を再現し、落ち着いた日々を送ってもらおう。</p> <p>話し声はやさしく、笑い声は大きく、仕事の音は小さく、端の人を案にさせる一歩先を見た介護を目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような空間づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>代表者自らがいつもホームのお母さんとしての存在であり、入居者や職員と共に笑い、助け合って生活している。</p> <p>広いリビングには大きなガラス窓があり、明るい日差しが徐々に入ってくる。また、畳の間の炬燵と神棚が、和風の落ち着いた安らぎを与えている。入居者は思い思いの居場所ですら自由に寛いでいる。</p> <p>ホームが自分の生活の場と思えるよう、入居者自身が率先して掃除・洗濯を行うように職員は支援しており、どこの家庭にもある風景を垣間見られる動きがある。</p> <p>思いのまま、気の向くまま、天気しだいのその日暮らしをうまく取り入れている。「今日はいい天気、へ行こう」と、日中活動できる計画を実施し、その後はゆっくり休んでもらう等生活にメリハリを付けている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>教師・保育士・保健士など、入居者が誇りを持って仕事をしてきた過去に敬意を払い、今は認知症であっても経験を尊重し、残存能力を引き出して役割や生き甲斐に繋げている。</p> <p>昔から馴染んで行ってきた家事作業は入居者に任せ、自信を持って出来た満足感を味わってもらえるように支援している。</p> <p>個人記録は鍵のかかるところに保管し、面会簿も一人ひとり個別帳に記載している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>管理者は、課題を職員に出し、アンケート方式で回答を求め、相互に学び合う資料にしている。</p> <p>防火管理者を決めて、消防署職員による防火訓練や救急法を受講している。また、自主訓練も行っている。</p> <p>問題発生やヒヤリハットの事例時には、すぐにケース会議を開き、対応策や改善策について検討し、二度と同じ事例が起きないように徹底している。</p> <p>内部研修・外部研修とも積極的に参加し、さらに資格を取得できるよう目標を持っている。</p>		